

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県薬務感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和6年第46週の発生動向

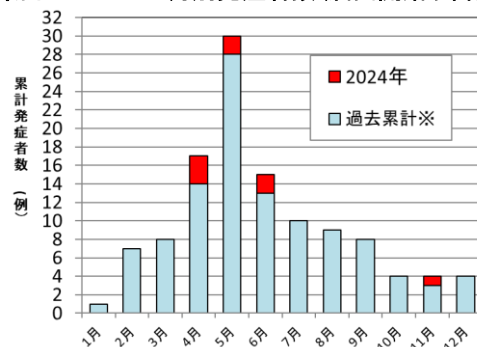
トピックス

・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）（全数報告の感染症）
延岡保健所管内から報告があった。患者は90歳代の女性で、ダニの刺し口は確認できなかった。県内での報告は、累計117例となった。

県内のSFTS 年齢別報告数(届出開始以降)

20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	2	5	26	44	31	7

県内のSFTS月別発症者数(届出開始以降)



※2013年3月から2023年まで

全数報告の感染症（46週までに新たに届出のあったもの）

- 1 類感染症：報告なし。
- 2 類感染症：報告なし。
- 3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例。
- 4 類感染症：重症熱性血小板減少症候群 1 例。
- 5 類感染症：梅毒 3 例、百日咳 2 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
3類	腸管出血性大腸菌感染症	宮崎市	20歳代	女	無症状病原体保有者	なし、O91(VT2)
4類	重症熱性血小板減少症候群	延岡	90歳代	女	—	下痢、嘔吐、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少
5類	梅毒	宮崎市	40歳代	男	早期顕症梅毒Ⅱ期	梅毒性バラ疹
			60歳代	女	早期顕症梅毒Ⅱ期	梅毒性バラ疹
		都城	10歳代	女	早期顕症梅毒Ⅱ期	丘疹性梅毒疹
	百日咳	宮崎市	0～4歳	女	—	夜間の咳き込み
			20歳代	男	—	持続する咳、夜間の咳き込み

□ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は868人(定点当たり24.8)で、前週比85%と減少した。なお、前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した主な疾患は、感染性胃腸炎、手足口病であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【インフルエンザ】

報告数は116人(2.0)で、前週比135%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(0.9)の約2.3倍であった。中央(11.0)、小林(5.0)、宮崎市(2.9)保健所からの報告が多く、年齢群別は15歳未満が全体の約8割を占めた。

【新型コロナウイルス感染症】

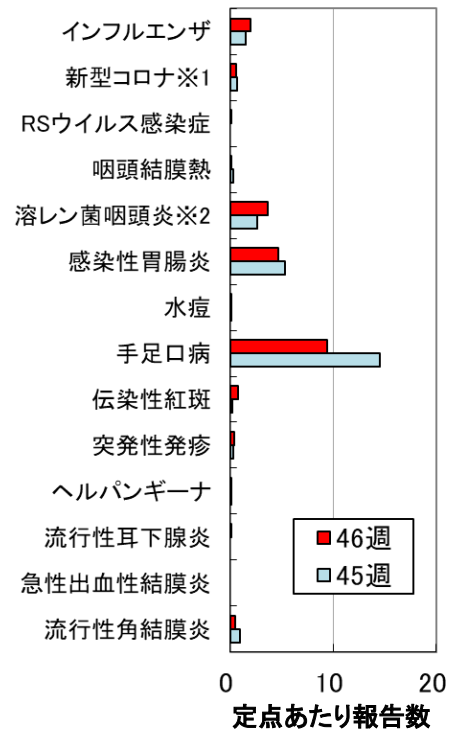
報告数は35人(0.6)で、前週比83%と減少した。高千穂(2.0)、日南(1.2)、中央(1.0)保健所からの報告が多く、年齢群別は15歳未満が全体の約4割を占めた。

【手足口病】

報告数は338人(9.4)で、前週比65%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.2)の約8倍であった。延岡(14.5)、宮崎市(12.5)、小林(10.3)保健所からの報告が多く、年齢群別は1歳から4歳が全体の約7割を占めた。

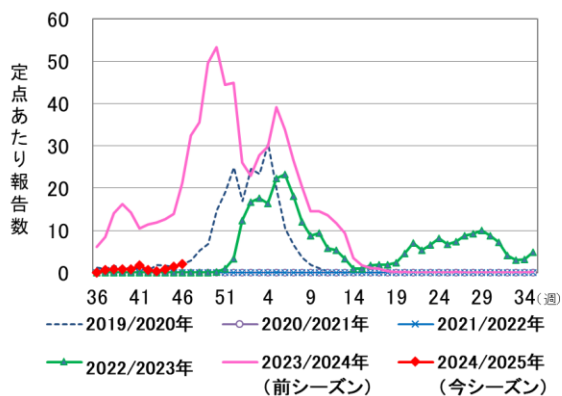
* 新型コロナウイルス感染症流行前5年間(2015-2019)の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

《前週との比較》

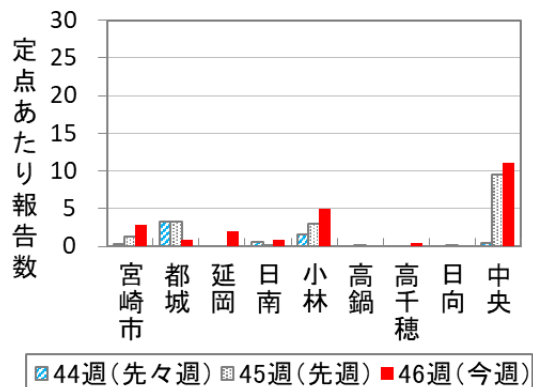


※1 新型コロナウイルス感染症
※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

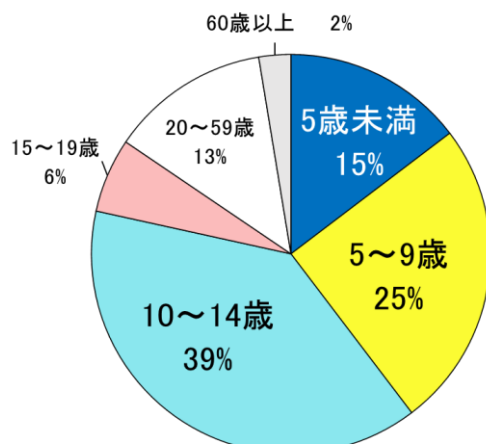
インフルエンザ 発生状況



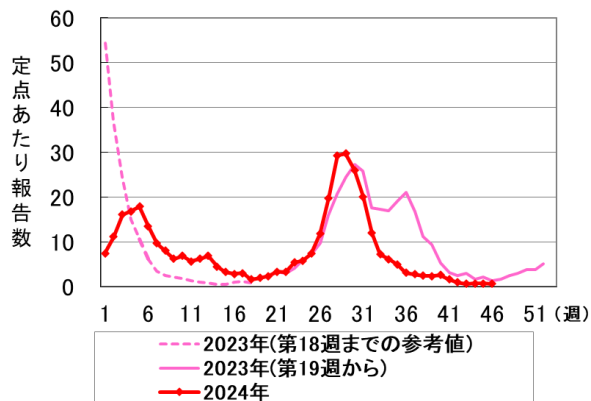
インフルエンザ 保健所別推移(3週分)



インフルエンザ年齢群別グラフ(第46週)

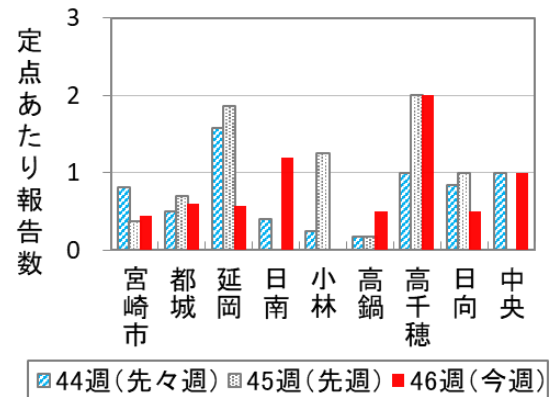


新型コロナウイルス感染症 発生状況

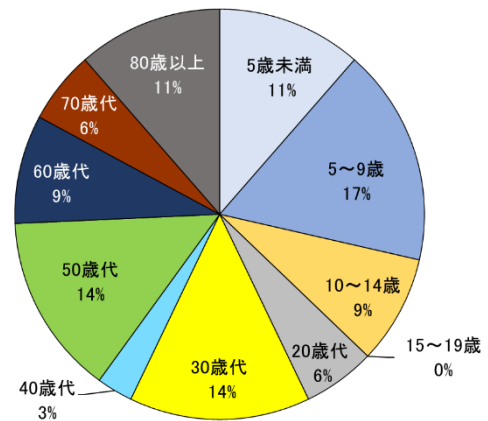


※新型コロナウイルス感染症の 2023 年第 1 週～第 18 週分のデータは、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値

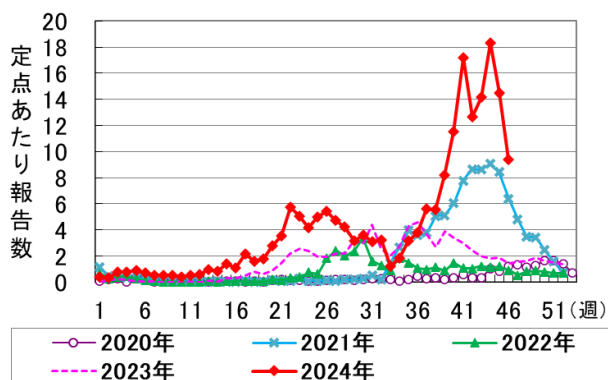
新型コロナウイルス感染症 保健所別推移(3 週分)



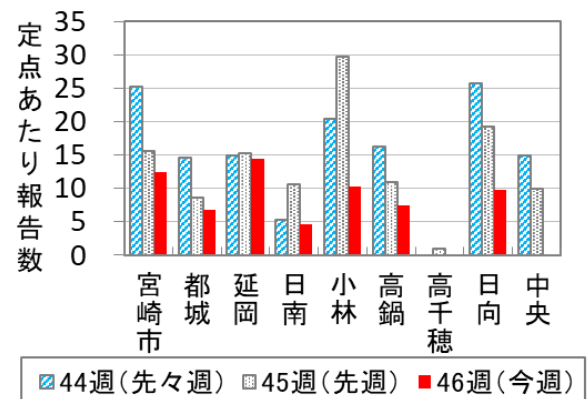
新型コロナウイルス感染症年齢群別グラフ(第 46 週)



手足口病 発生状況



手足口病 保健所別推移(3 週分)



★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：報告数は 16 例(定点当たり 2.3)で、前週比 0.9 倍と減少した。日向(11 例)、延岡(2 例)、高鍋(2 例)、宮崎市(1 例)保健所から報告があった。年齢は 5～9 歳が 9 例、10～14 歳が 5 例、0～4 歳が 2 例であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	手足口病(12.5)
都城	手足口病(6.8)
延岡	手足口病(14.5)、伝染性紅斑(3.8)
日南	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(12.3)
小林	手足口病(10.3)
高鍋	手足口病(7.5)
高千穂	なし
日向	手足口病(9.8)
中央	インフルエンザ(11.0)、 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(10.0)

※流行警報レベル開始基準値※

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(8)
- ・手足口病(5)
- ・伝染性紅斑(2)

※流行注意報レベル基準値※

- ・インフルエンザ(10)

🇯🇵 全国 2024 年第 45 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	299 例				
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	70 例	腸チフス	1 例	パラチフス	1 例
4類感染症	E型肝炎	5 例	エムボックス	1 例	つつが虫病	11 例
	デング熱	6 例	日本紅斑熱	24 例	日本脳炎	1 例
	ボツリヌス症	1 例	レジオネラ症	61 例	レプトスピラ症	2 例
5類感染症	アメーバ赤痢	6 例	ウイルス性肝炎	5 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	32 例
	急性脳炎	8 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	15 例
	後天性免疫不全症候群	7 例	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	12 例
	侵襲性肺炎球菌感染症	31 例	水痘(入院例)	6 例	梅毒	181 例
	播種性クリプトコックス症	2 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1 例	百日咳	109 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 86%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患は特になく、減少した主な疾患は新型コロナウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎及び手足口病であった。

インフルエンザの報告数は 5,252 人(1.1)で前週比 102%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値*(0.7)の約 1.6 倍であった。沖縄県(7.4)、千葉県(2.1)、福岡県(2.0)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 6 割を占めた。

手足口病の報告数は 17,992 人(5.7)で前週比 75%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.0)の約 5.9 倍であった。宮崎県(14.5)、愛媛県(12.9)、鹿児島県(10.5)からの報告が多く、年齢群別では 1 歳から 5 歳が全体の約 7 割を占めた。

マイコプラズマ肺炎の報告数は 1,165 人(2.4)で前週比 99%とほぼ横ばいであった。福井県(6.0)、埼玉県(4.4)、京都府(4.3)からの報告が多く、本県の定点当たりの報告数は 2.4 であった。全国の年齢群別では 15 歳未満が全体の約 8 割を占めた。

※ 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015－2019)の
当該週、前週、後週(計 15 週)の平均値

疾病名		第45週	第46週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	86	116	46	9	14	4	20		1		22
	定点当り	1.48	2.00	2.88	0.90	2.00	0.80	5.00	0.00	0.50	0.00	11.00
新型コロナウイルス感染症	報告数	42	35	7	6	4	6		3	4	3	2
	定点当り	0.72	0.60	0.44	0.60	0.57	1.20	0.00	0.50	2.00	0.50	1.00
RSウイルス感染症	報告数		4		1				2		1	
	定点当り	0.00	0.11	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00	0.25	0.00
咽頭結膜熱	報告数	11	6	2	1						3	
	定点当り	0.31	0.17	0.20	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.75	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	94	132	46	10	9	37		17		3	10
	定点当り	2.61	3.67	4.60	1.67	2.25	12.33	0.00	4.25	0.00	0.75	10.00
感染性胃腸炎	報告数	193	170	68	26	2	30	15	8		13	8
	定点当り	5.36	4.72	6.80	4.33	0.50	10.00	5.00	2.00	0.00	3.25	8.00
水痘	報告数	5	2	1	1							
	定点当り	0.14	0.06	0.10	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	522	338	125	41	58	14	31	30		39	
	定点当り	14.50	9.39	12.50	6.83	14.50	4.67	10.33	7.50	0.00	9.75	0.00
伝染性紅斑	報告数	9	27	9	2	15					1	
	定点当り	0.25	0.75	0.90	0.33	3.75	0.00	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
突発性発しん	報告数	10	14	3	4	4	2	1				
	定点当り	0.28	0.39	0.30	0.67	1.00	0.67	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	6	1				1					
	定点当り	0.17	0.03	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数		4		1	1					2	
	定点当り	0.00	0.11	0.00	0.17	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	6	3		2	1						
	定点当り	1.00	0.50	0.00	1.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数	17	16	1		2			2		11	
	定点当り	2.43	2.29	1.00	0.00	2.00	0.00	0.00	2.00		11.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2024年 第1週～46週 保健所受理分)

2類感染症	結核	101例	
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	40例(1)	
4類感染症	E型肝炎	2例	A型肝炎 1例 重症熱性血小板減少症候群 8例(1)
	つつが虫病	14例	日本紅斑熱 15例 レジオネラ症 16例
5類感染症	ア메ーバ赤痢	4例	ウイルス性肝炎 3例 カルバペネム耐性腸内細菌感染症 4例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	4例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 18例 後天性免疫不全症候群 2例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4例	侵襲性肺炎球菌感染症 15例 水痘(入院例) 5例
	梅毒	138例(3)	播種性クリプトコックス症 4例 破傷風 2例
	百日咳	50例(2)	

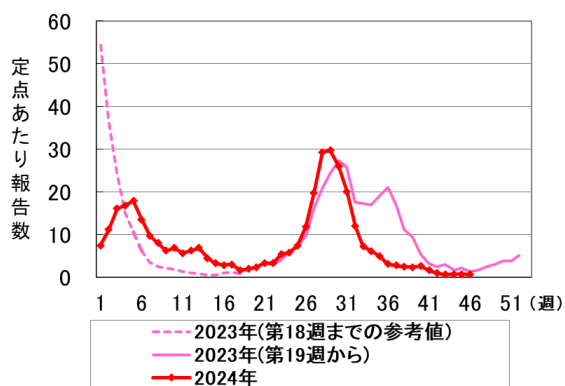
()内は今週届出分、再掲

新型コロナウイルス感染症情報《県内第 46 週、全国第 45 週（再掲）》

□ 県内第 46 週 新型コロナウイルス感染症発生動向

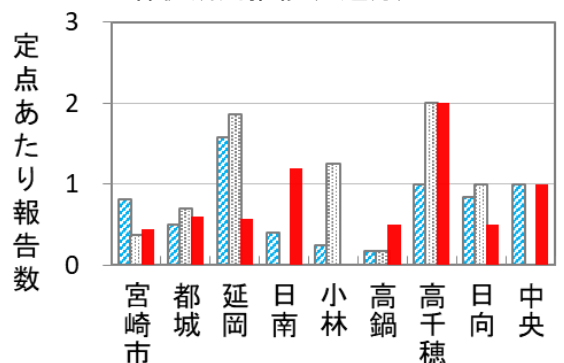
11 月 11 日～11 月 17 日までの 1 週間で 35 人(0.6)の報告があり、前週比 83%と減少した。高千穂(2.0)、日南(1.2)、中央(1.0)保健所管内からの報告が多かった。

新型コロナウイルス感染症 発生状況



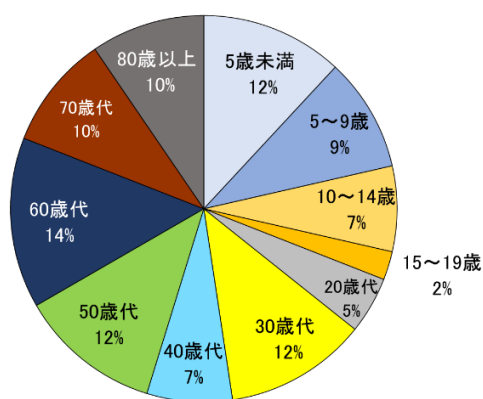
※新型コロナウイルス感染症の 2023 年第 1 週～第 18 週分のデータは、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値

新型コロナウイルス感染症
保健所別推移(3 週分)

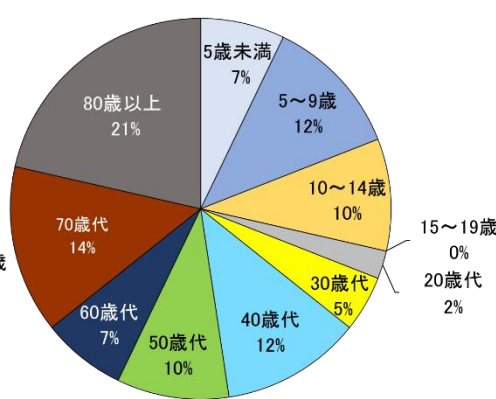


新型コロナウイルス感染症 年齢群別グラフ

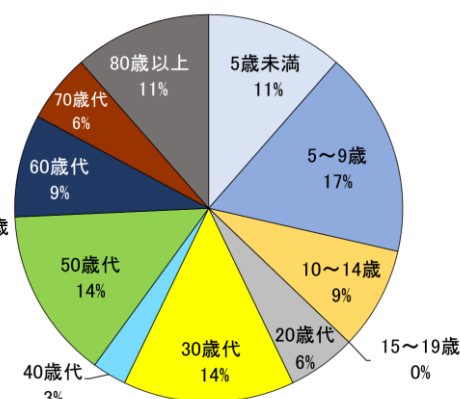
第 44 週



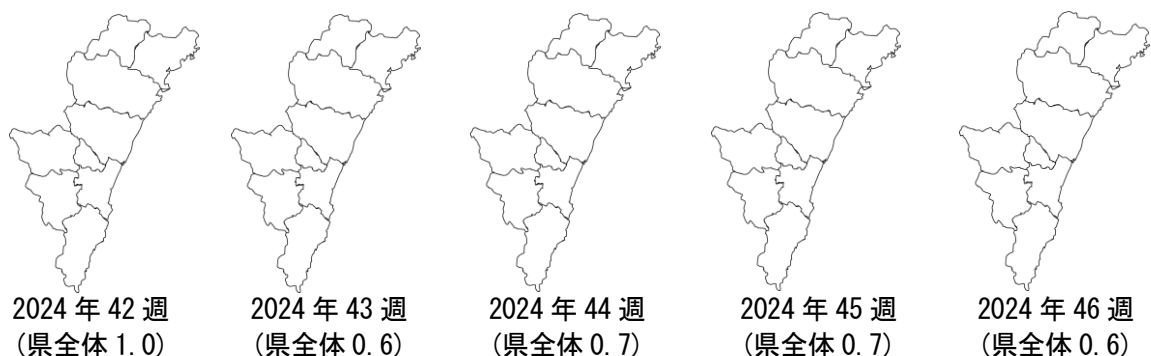
第 45 週



第 46 週



保健所別新型コロナウイルス感染症流行マップ 2024 年第 42 週～2024 年第 46 週



* 県独自の基準によるもの

□ 全国第 45 週 新型コロナウイルス感染症発生動向

11 月 4 日～11 月 10 日までの 1 週間で 7,246 人(1.5)の報告があり、前週比 94%と減少した。秋田県(4.2)、北海道(3.8)、岩手県(3.5)からの報告が多く、年齢群別では 60 歳以上が全体の約 4 割を占めた。